

《担当者名》 神田直樹 kanda@hoku-iryo-u.ac.jp 御厩美登里 山田拓 横川亜希子 嶋田あゆみ 川崎ゆかり 船橋久美子  
 中安隆志 田中裕子  
 実践基礎看護学：平典子 明野伸次 福井純子 米川弘樹 新見千穂 山口夕貴  
 成人看護学：唐津ふさ 熊谷歌織 高木由希 伊藤加奈子 高橋啓太 前川真湖  
 母子看護学：木浪智佳子 常田美和 遠藤紀美恵 加藤依子  
 地域保健看護学：竹生礼子 山田律子 工藤禎子 八木こずえ 宮地普子 内ヶ島伸也 川添恵理子 明野聖子 増田悠佑  
 若濱奈々子  
 臨床看護学：塚本容子 石角鈴華 三津橋梨絵

## 【概要】

3年次の臨地実習に必要な基礎的看護実践能力の修得を目指し、ロールプレイングを取り入れたグループ学習によって、対象者の状況に応じた看護技術を実践的に学ぶ。

基礎的看護実践能力の習得に関しては、OSCE (Objective Structured Clinical Examination：模擬患者参加による客観的臨床能力試験) によって評価を受け、自己の課題を明らかにする。

## 【学修目標】

1. 援助的人間関係を形成するための行動をとることができる。
2. 対象者の特性と状況を理解するための観察ができ、得られた情報の意味をその場で判断できる。
3. 判断したことを踏まえて看護援助を実践し、報告することができる。
4. 臨地実習に向けて、基礎的看護実践能力の自己課題を明確にできる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	看護実践演習の目的と構成	1. 科目のねらいと学習の進め方の理解 2. 事例と課題の提示	全体統括教員他約15名
2	事例の理解	対象者の健康障害、症状による苦痛、日常生活状況を理解するために必要な知識の整理	全体統括教員他約15名
3 }	フィジカルアセスメント	対象者の健康障害、症状による苦痛を理解するために必要な観察方法の確認と実践	全体統括教員他約15名
4			
5 }	日常生活援助の実践	対象者への日常生活援助の実践と報告	全体統括教員他約20名
6			
7 }	日常生活援助の実践	対象者への日常生活援助の実践と報告	全体統括教員他約15名
8			
9 }	日常生活援助の実践	対象者の状況に応じた看護計画の立案(グループワーク)	全体統括教員他約15名
10			
11 }	日常生活援助の実践	対象者の状況に応じたフィジカルアセスメントと日常生活援助(学生同士のロールプレイングと評価)	全体統括教員他約15名
12			
13 }	日常生活援助の実践	対象者の状況に応じたフィジカルアセスメントと日常生活援助(模擬患者を対象にした実践と評価)	全体統括教員他約24名
14			
15	全体まとめ・評価 実技試験(OSCE)の説明	1. 臨地実習での看護実践における自己課題の明確化 2. OSCEの目的・実施・評価等の説明	全体統括教員他約37名

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

課題（ワークシート）20%、実技試験（OSCE）80%

- ・ OSCEは前期定期試験期間（1日）で行う。
- ・ 追再試験は後期の領域別実習前に行う。
- ・ 不合格者には、評価の結果をフィードバックし、再試験に向けての技術指導（補講）を行う。

**【教科書】**

学習内容に関連する既習科目の教科書

**【参考書】**

必要に応じてその都度紹介する

**【備考】**

視聴覚教材も必要に応じて紹介する

**【学修の準備】**

1. 事例に関連した2年次までの履修専門科目（人体構造学、人体機能学、看護技術各論、看護技術演習、成人病態論、成人看護学各論など）を復習すること
2. 事前に提示された課題に取り組み、演習内容を理解した上で毎回の授業に臨むこと
3. 各演習の開始前までに、使用する物品の取り扱いについて確認すること
4. 指定する視聴覚教材を視聴した上で、演習に参加すること
5. OSCEは、模擬患者を対象とした看護実践を行った上で受験すること

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP2,1,3

**【実務経験】**

看護実践演習に関わる教員は、看護師資格を有している

**【実務経験を活かした教育内容】**

看護師として現場での実務経験と大学教員として実習指導の経験を重ねている。その経験を講義では具体的な場面として学生に伝えている。